

2025年1月17日

東邦銀行

取締役頭取 佐藤 稔 様

先達山を注視する会

代表 松谷基和

前略

私たちは福島市の住民として、目下、先達山（在庭坂金堀沢）のメガソーラー施設建設の背景と工事の進捗状況を注視している地元の有志団体です。私はその代表の松谷基和と申します。庭坂地区に在住ですが、仙台の東北学院大学の教授をしております。

貴殿もご承知おきの通り、このメガソーラーの建設工事は、福島市民の宝ともいべき吾妻山の山麓の景観・環境を著しく破壊し、市民の大きな失望と怒りを招いております。すでにこの建設工事の問題については、各種メディアにおいて広く報じられておりますが、とりわけ昨年6月2日に発生した建設現場からの土砂流出事故は、近くの県道を埋め、沢を汚し、豊かな溪流を台無しにしました。この事故により事業者は、県当局による嚴重注意・指導を受けています。当然、今後とも市民の生命を危うくするような大規模災害を起こす可能性もあり、住民は不安を募らせています。この土砂流失事故後に、福島市役所が「先達山太陽光発電施設特設ページ」を設け、事業者や工事に関連する情報を市民に提供し始めたのも、本事業に対する不安や批判が福島市民の間に広まっていることへの危機意識の現れです。

この住民を脅かす巨大な開発事業を進めているのは、AC7合同会社（以下、AC7社）です。しかし、この会社は地元と何ら繋がりが無いだけでなく、合同会社ゆえ、企業としての実態や経営責任体制が不明瞭であり、地元住民の信頼を得るに足りません。また、AC7社が、事業管理を委託しているAMP社も外資系であり、地元の企業や住民との関係は希薄です。このように、事業の主体者がいずれも地元住民と乖離し、地元住民を軽視している

がために、彼らは地元の宝である吾妻山の環境や景観を平気で破壊できるのだと、私たちは理解しておりました。

ところが、私たちは、この度、福島を代表する金融機関であり、地元の誇りである御社が、このAC7社に融資するシンジゲートに参画しており、先達山の建設現場の用地を担保に、令和4年3月31日付で金20億円の融資をされている事実を知りました。福島の土地と人々に長年寄り沿って発展してきた御社が、このような融資案件に参加されていたとは、正直、衝撃でございました。

これは何かの間違いかと思い、まずは御社に事実を確かめ、御社の融資担当者から地元民に対する何らかの説明を頂けないかと御社広報課に連絡しました(2025年1月17日)が、担当の佐藤様から、そのような個人的な依頼には応えられないし、個別の事業案件については融資事実の有無も含めて一切回答しないという完全な門前払いを受けました。

とはいえ、私たちは先達山の事業を注視する地元の住民として、御社に期待するところは大きく、御社のお考えや立場を一切聞かぬまま、一方的に御社を批判するようなことは避けたく思います。そこで、失礼ながらも、広報課を経由せず、直接、御社のトップである貴殿あてに質問事項をまとめて送らせていただきたく思いました。御社が地元住民に寄りそう銀行として、責任ある回答をお寄せ下さることを期待しております。

なお、この質問状でお尋ねしている内容は、地元住民の不安や疑念を解消し、地元社会における御社の立ち位置を把握する上で必須の事項であり、公共性が高いものです。従いまして、御社から頂いたご回答は、後日、関心のある市民や住民、また外部団体と共有したく考えております。この点を予めご承知おきの上、2025年2月11日までにご回答いただけますよう宜しくお願い申し上げます。

草々

質問状

東邦銀行

取締役頭取 佐藤 稔 様

先達山を注視する会
代表 松谷基和

1. AC7社の先達山のメガソーラー事業に融資する至った経緯について、詳しくご説明ください。
2. 融資に先立って、この事業が、福島市全域から目視できるほどの広大な森林伐採、大規模な造成工事を伴うものであり、市内からの吾妻山の景観を一変させるような事態が生じることを理解・予測されていましたか。
3. 仮に理解・予測されていなかったとしたら、建設工事が進む中で、当初の計画とは異なる大規模な工事・景観破壊を伴うものであることについて、事業者に対して説明を求めたり、御社として独自に調査・確認などを行いましたか。
4. 御社と同様にAC7社の先達山案件に融資されているSBI新生銀行は、2021年12月22日のプレスリリースで、本件融資を「福島県再生可能エネルギー推進ビジョン」や「福島市総合計画まちづくり基本ビジョン」に貢献するものであり、「持続可能性やESG/SDGsの観点に、環境・社会・経済など社会全般に対して正のインパクトをもたらす・・・サステナブルインパクト」をもたらす「グリーンローン」であると宣伝広報しておりますが、御社も同様のご見解でしょうか？そうであれば、なぜ福島の地元環境に貢献する本件融資を、地元で宣伝広報されないのでしょうか。
5. 今日もお福島市民から強い不満・批判を受け、環境・景観保護の観点からも問題の多い事業に対して御社が融資することについて疑問を抱き、問い合わせをした我々住民を門前払いした御社の姿勢は、御社の掲げる「行動指針・価値観」に明記された「地域社会への貢献」「高い倫理観、誠心誠意」「お客様との深度ある対話を重視し、共感する」とは相いれない姿勢であり、また、御社が尽力されているSDG/ESG関係の活動やCSRにも反すると思われませんが、ご見解はいかがでしょうか。
6. 今後、先達山での事業の問題性がますます明らかとなり、市民や行政からの批判が強まる場合、御社が融資を撤回する可能性はありますか。

以上